

Duodenogastric reflux sustains Helicobacter pylori infection in the gastric stump

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/15834 |

| | |
|---------|--|
| 学位授与番号 | 甲第 1610 号 |
| 学位授与年月日 | 平成 15 年 12 月 31 日 |
| 氏 名 | 中川原 寿 俊 |
| 学位論文題目 | Duodenogastric Reflux Sustains <i>Helicobacter pylori</i> Infection in the Gastric Stump (残胃における胃十二指腸逆流とヘリコバクターピロリ感染に関する検討) |
| 論文審査委員 | 主 査 教 授 磨 伊 正 義 副 査 教 授 渡 邊 剛 教 授 澤 武 紀 雄 |

内容の要旨及び審査の結果の要旨

十二指腸胃逆流 duodenogastric reflux (DGR)が残胃炎を引き起こし、残胃癌を誘発することは、疫学的にまた動物実験で示されている。他方、*Helicobacter pylori* (HP)感染は、WHO・IARCが明らかな発癌性を持つと認め definite 1 に分類している。しかし DGR と HP 感染がどのように関与するかについて検討した報告はない。そこで本研究では、DGR が HP 感染にどのように影響するかを明らかにし、両因子が胃炎、胃発癌にどのように関与するか検討した。方法は、消化性潰瘍または胃癌の診断で幽門側胃切除術を受けた患者 95 例を対象とし、胃切除の再建法別に Jejunal pouch interposition 法により再建された群 (JPI 群)、Roux-en-Y 法により再建された群 (RY 群)、Billroth I 法により再建された群 (B-I 群)、Billroth II 法により再建された群 (B-II 群) の 4 群に分け、残胃の DGR の程度、HP 感染の有無、HP 以外の細菌の同定および菌量の測定、残胃炎の程度を調べた。

得られた結果は以下のように要約される。

- 1) DGR の程度は、JPI 群、RY 群が B-I 群、B-II 群に比べて軽度であった。
- 2) HP 感染は、JPI 群、RY 群が B-I 群、B-II 群に比べて感染率が低かった。
- 3) 他の細菌の菌種については 4 群間で差を認めなかった。しかし菌量については JPI 群、RY 群が B-I 群に比べて多く、HP 感染例では非感染例に比べて他の細菌の菌量が少なかった。
- 4) 残胃炎の程度は、JPI 群、RY 群が B-I 群、B-II 群に比べて軽度であった。

これらの結果により、残胃の HP 感染は DGR の程度と正の相関関係を持つことが明らかとなった。消化性潰瘍や胃癌の患者では、ほぼ全例に HP 感染を認めることより、JPI 群、RY 群では、幽門側胃切除術後に HP が除菌された可能性が示唆された。除菌の原因は、HP 感染率と他の細菌の菌量との間に負の相関関係がみられることより、他の細菌増殖による影響が示唆された。さらに、DGR と HP 感染を認める残胃で炎症の程度が強いことは、DGR と HP が、相乗的に胃粘膜を障害する機序が考えられた。

本研究は DGR と HP 感染が残胃粘膜を障害する機序を解明したもので胃炎、胃発癌の予防に寄与する価値のある研究であると評価された。